



〒892-0841
鹿児島市照国町13-42
カトリック鹿児島司教区
電話099(226)5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円

道標



Yet... Joy! Hope! Gratitude!

納骨堂委を墓地委員会に改組

教区墓地全体の健全運営を図る

1999年以来開催されていなかった墓地委員会が、再スタートした。これは納骨堂建設のために組織された委員会をその建設が終わったのを機会に、それ以後の管理運営のために継続して開催されていた会議を納骨堂だけでなく、墓地の運営・管理にまで検討できるものに改変されたもの。同委員会では、今後、定期的に会合を持ち、納骨堂と墓地の健全な運営を図ることとしている。

1月30日(火)午後、教区本部で「墓地委員会」が開催された。

同委員会は、かつて鹿児島市内にある六つの教会からの信徒で構成されていたものだが、1999年2月の会議を最後に開催されなくなっていた。開催されなくなった理由は、担当信徒の高齢化や移動によるもので、小教区でその役割の引き継ぎがなされていなかったために、墓地委員が存在しない小教区が増えたからである。

今回開催された委員会は、昨年、納骨堂建設のために立ち上げられた委員会を発展的に解消し、墓地委員会として再スタートさせたもの。まだ幾つかの小教区で同委員会の担当者が決まっていなかったが、末吉卓也神父を委員長に数人の信徒で納骨堂と墓地の管理について意見を交換した。

墓地管理の現状
カトリック唐湊墓地(1956年県知事承認)には、400余りの区画に約370の墓石が立っている。



昨年完成した納骨堂

その内訳は2015年現在で、ザビエル教会(72)、鴨池教会(105)、谷山教会(48)、吉野教会(29)、紫原教会(26)、玉里教会(14)、その他(71)。このうちザビエル教会と谷山教会、鴨池教会ではある程度の所有者を小教区で管理しているが、それ以外の所有者は本部がそれを担っている。「ある程度の」としたのは、祖父母から、そして父母から子どもたちへと信仰が伝えられておらず、最初の所有者は信者であっても、すでに信者でない者が墓地所有の代表者となっていたり、例え信者であっても教会から離れるなどして、教会との関係が切れている者が増えてきているからである。

納骨堂
一次募集も権利証の発送段階に入り、現在、委員会では2次募集を間もなく開始する方向で検討した。この日の会議では、納骨堂の所有区画をどのように決めるのが公平性を保つかなど検討された。意見の中には抽選するなどもあったが、将来的なことを考え、申請から入金に及ぶ手続きを完了した者から順番に、上段、中段、下段と貸し出すことを確認した。

教区で働く神父たちが研修

恒例の鹿児島教区司祭大会

毎年恒例となっている鹿児島教区で働く教区司祭、修道会司祭が共に研修し親睦を深める「鹿児島教区司祭大会」が1月22日(月)から25日(木)まで鹿児島市与次郎の「かごしま第一ホテル」で行われた。

今年の大会には長崎の黙想の家(イェズス会)を講師に招き、34人の司祭が参加、熱心に研修した。学習のテーマは「明日の教会に向かう」で、松村神父は自らの司牧経験を通して気付いたこと、それは大切なことではなく、取り組む姿勢にある



講話する松村神父

都市デザイン部門において、改修された聖心教会が大賞(第5回かごしま・人・まち・デザイン賞)を受賞いたしました。名瀬の町の中心に位置し、堂々とそびえるその姿が、美しくうるおいのある都市景観や街並みを形成、調和している建造物として高い評価を受けました。これは、まさに改修の喜びです。これからも開かれ



聖心教会が受賞
第5回かごしま・人・まち・デザイン賞

3月25日は世界青年の日

1984年、「あがないの特別聖年」に、聖ヨハネ・パウロ2世教皇は十字架(3・8m)を聖ペトロ大聖堂の祭壇脇に設置しました。そして特別聖年の結びに、それを「主イエスの人類への愛のしるし」として聖年たちに託し、キリストこそが救いであることを世界に告げるよう願いました。以来、この十字架は教皇の志を継いだ青年たちの巡礼のシンボルとなり、諸国を旅することになります。国連が定めた国際青年年の1985年、受難の主日に、青年たちはこの十字架とともに教皇のもとに集まりました。教皇はこの年、受難主日を毎年「世界青年の日」として祝うように定め、2・3年に1度は、世界中の青年が教皇と出会うワールドユースデー(WYD)が開かれるようになりました。2019年には、中米パナマでWYDが開催されます。

教区人事

▼鈴木康由神父(紫原教会主任)は、小宿主任司祭
▼山口好信神父(鴨池教会協力司祭)は、鴨池教会協力司祭の任を解き、紫原教会主任司祭
▼李秉徳神父(聖心教会叙任司祭・小宿教会担当)は、小宿教会担当から離れる。
※着任はいずれも復活祭後の主日

キリストを中心とする共同体(ともに生きる)の姿の必要性のこと。
また午後からの時間で、いくつかのグループに分かれ、それぞれの教会内の現状、課題、そして現代人の求める教会の姿にどのようなことか分かっていくのかなどが分かち合われた。
次回の司祭大会は奄美地区司祭が担当となる。

た教会として、地域に愛され多くの方々が集まる祈りの家として、宣教の場となることを願いながら、ご報告とさせていただきます。
神さまに感謝。(報告・聖心教レポーター)

鹿児島教区で働く聖職者による
セクハラ・パワハラで悩んだら
子どもと女性の人権相談室

Tel.090 (3418) 2729

※相談内容の秘密は厳守されます。

押学生の「僕の長崎への道」 日本二十六聖人の道を歩いて (17)

3月25日(金) 武雄―彼
杵港―時津港：約26km(航
路含めず)

午前8時30分、武雄を出
る。ここからは長崎街道だ。
淵ノ尾ダムを右手に峠を登
る。峠を越えたところ、左
に「長崎街道」との標識
が。舗装されない、踏み跡
程度の小径が山へと続く。
一瞬、迷った。が、そのま
ま舗装路をとる。

峠をしばらく下ると左
手、山側が大きく削られ、
ダンブなど、大型の土木車
両が出入り。長崎新幹線の
工事現場だ。小径を行かな
いでよかった。この現場に
迷い込んだにちがいない。
このように、旧道も含め
遺跡等、古人の足跡は消え
る。文化財保護法は、こう
した公共工事等の際し、事
前調査や保存を自治体に課
す。工事中に見えられた場
合、発掘調査と埋蔵物の保
存を義務づける。しかしそ
の多くが、記録保存にとど
まる。



26聖人が上陸した時津港

発掘・採集された埋蔵物
は保管、遺跡は埋め戻さ
れ、その地での開発は許可
される。国宝級の遺跡等で
ない限り、生活の利便性を
優先、古の生活が顧みられ
ることはまずない。開発推
進派にとって、文化財保護
は単なるノスタルジーとし
か映らない。
はたしてそうか。僕たち
は現在にだけ生きているの
ではない。過去に連なり、
未来へと続く現在(いま)
に生きる。過去も未来も現
在も、三者は等価だ。何よ
り、過去の無い現在も未来
もあるまい。過去の喪失
は、僕たちの根っここの喪
失。これを分かっていない
現代人がいかに多いか。
亀水から国道34号。嬉野
温泉を抜け、俵坂へ。俵坂
関所跡を過ぎる。峠のきわ
みは、佐賀県と長崎県との
県境。ついに最後
の県域に。
峠を越え、国道
から旧道へ。驚い
た。茶畑の谷の向
こう、山のほぼ半
分を削ってコンク
リートで固めた大
穴が。おそらく長
崎新幹線のトンネ
ル。長閑な里山の
景観に不似合い
な、暴力的な絵
だ。現代ほど、暴
力にみちた時代は
ない。ただ洗練さ
れ隠蔽されている
だけ。気づかない

ただだ。
大楠小学校を過ぎ、下
る。長崎自動車道の橋脚の
間に大村湾が。
午後3時過ぎ、彼杵港
着。二十六聖人は、ここか
ら船で時津へ渡った。現
在、航路はない。彼杵駅か
ら鉄路、大村へ。長崎空港
からの航路をこれに代え

た。
午後6時30分、時津港
着。
3月26日(土) 時津港―
長崎・西坂：約10km

午後9時、時津港出発。
浦上街道を行く。時津茶
屋(本陣)跡前を経る。打
坂峠の登り口には、「関係
者以外立入禁止」の札。国
道206号へ。
長崎大学前を過ぎ、浦上
街道に戻る。「ベアトス様
の墓」を経て平和町、平野
町の住宅街を抜け、長崎大
学病院前、坂本國
際墓地と過ぎる。
不思議だ。きよ
うは全く思念がは
たらかない。無念
無想。僕という沈
黙、沈黙という沈
黙。一心不乱に歩
いている。
道は急に狭くな
った。いくつもの
階段を昇降。路地
を抜ける。彼方に
ガウディもどきの
塔が。西坂教会の
前を一礼して過
ぎ、そのまま芝生
へと踏み入る。
視界がひらけ



長崎市西坂の日本26聖人殉教記念碑前で

ら6時15分頃までびっしりの勉強でし
た。テスト日を除き、ほとんど欠席なし
で勉強しました。といつても疲れて、鳩
のように首がゴクンゴクンと前後してい
る時もありました。でも教会で会う前村
さんに話すと「よか、よか」と楽しい体
験を話して励ましてくれ、ホッとしまし
た。バザーなどでも一緒に仕事に入れ
てもらい、嬉しいでした。
家族も洗礼を許してくれ、祖父母、親
戚、みんな協力し支えてくれ洗礼式にも
出席してくれました。
これから何もうからない私のため、
お祈りとご指導をお願いします。あ
りがとうございました。

洗礼を受けて

高校2年 山元 快

12月24日(聖夜ミサ)、カテドラル・
ザビエル教会で郡山司教様から洗礼を受
けました。洗礼の勉強をしてくださった
方は校内で時々会う山頭先生。代母にな
ってくださった方は、前村珠江さん。霊
名は図書館で調べたジャンヌ・ダルク。
私がカトリックをもっと知りたいと思っ
たきっかけは、朝礼で毎朝読む聖書をも
っと深く読みたいと思ったからです。
2年生になってから学級のこと忙し
くなりまりましたが、毎週、木曜日、5時か

た。西坂公園。午前11時7
分。広場に立つ。
頭も心も真っ白。感動も
ない。感慨もない。喜びも
ない。ガツポーズも、涙
もない。日本二十六聖人の
最期が頭をよぎることもな
い。ただただ真白な空(く
う)があるのみ。
日本二十六聖人殉教記念
碑の前で記念撮影。隣接す
る日本二十六聖人記念館の
受付で電話を借り、鹿児島
教区本部へ到着の報告をす
る。
もう何もすることはな
い。歩むべき先も、行くべ
きあてもない。西坂を下
る。
春の光の中、僕は真っ白
な空にみだされていた。
あとがきにかえて

この旅の至る所でお世
話になったすべての方々に
感謝を申し上げます。
長らく教区を空けるこの
旅を許可してくださった、
鹿児島教区の郡山健次郎司
教、養成担当の泉浩二神父
に感謝を申し上げます。
助祭・司祭候補者認定の
日程調整等でご迷惑をおか
す。
全国で、この旅の期間
中、お祈りくださった多く
の方々へ感謝を申し上げます。
この旅を歩きうる頑健な
身体に生み、育ててくれた
両親に感謝しています。そ
して、―最後まで共に歩い
てくださった、神に感謝。
(了)

+KABAYAN SEKSYON+ Popular na Debosyon: Isang Mahalagang Yaman

Matatagpuan ang popular na debosyon o "espiritualidad ng bayan" sa halos lahat ng kultura at relihiyon: hinihimok nito ang mga karaniwang tao sa pananalangin at pagsamba, mga popular na pamamanata at mga pagdiriwang pangrelihiyon. Ang Simbahan sa Asya ay hindi maaaring balewalain ang napakalaking kapangyarihan ng popular na debosyon sa pagtupad nito ng kanyang misyon ng ebanghelisasyon.

Ilang mga Santo Papa na ang nagsalita ukol sa bagay na ito. Para kay emeritus Papa Benedicto XVI, ang popular na debosyon ay "isang mahalagang yaman ng Simbahang Katoliko." Inilahad ni Papa Pablo VI na ang popular na debosyon ay "nagpapatunay ng pagkauhaw sa Diyos na tanging ang mahirap at mga simple lamang ang nakaaalam" at "nagagawa nito ang mga tao na maging bukas-palad at magsakripisyo hanggang humantong sa kabayanihan, kapag ito ay naging usapin ukol sa pagpapatotoo sa pananalig" (Evangeli Nuntiandi b.48).

Pinaninindigan ni Papa Francisco na ang ganitong pagdedebosyon ay "isang espiirituwalidad na nagkatawag-tao sa kultura ng mga aba", "isang lehitimong paraan ng pagsasabuhay sa pananampalataya", at isang "paraan ng pagiging mga misyonero" (Evangeli Gaudium b.124).

Dahil dito, "kailangang harapin natin ito sa pagmamasad ng Mabuting Pastol, na naghahangad magmahal at hindi manghuga" (EG b.125). Sadyang kailangang pag-aralan ng Simbahan kung paano magtataguyod ng lalong malalim na pananampalataya at pagmamahal sa Eukaristiya.

Kaya para sa ating lahat na mga Kristiyano Katoliko, ang pagdedebosyon at pakikiisa sa banal na Eukaristiya ay nagbibigay sa atin ng panibagong lakas sa buhay espiirituwal at higit sa lahat mas napapalalim ang ating relasyon sa Panginoon Hesus na yan ang pinakasentro ng ating pagdedebosyon sa Banal Eukaristiya. Ibinigay niya sa atin ang kanyang sariling buhay bilang isang alay para tayo ay magkaroon ng buhay na walang hanggang. Tinupad niya ang pagsunod sa kalooban ng Ama na nasa Langit, at ang sinumang sumusunod sa kalooban ng Anak, ay siya ring pagsunod sa kalooban ng Ama.

Katekismo sa Taon ng Habag (Fr. Dino Orolfo)

文芸

短歌

鹿児島純心 川上 和
めぐりくる受難節のメシア
に心を上げる復活の栄光へ
ザビエルの伝えしキリスト
贖い十字架のみ業「これ
ぞ救い」と

俳句

鹿児島純心 川上 和
梅の香や庭先の一輪また一輪
降る雪や蕾も凍る薩摩の月

とそ子ども食堂

ご寄付は下記の口座にお願い致します。

☆ゆうちょ銀行：とそ子ども食堂

店名：七八八 店番：788

普通預金 口座番号 3225173

☆鹿児島銀行：とそ子ども食堂

県庁支店 普通預金 3019349

カトリック通信講座

1972年開設以来、入門への第一歩として、また信者の学び直し、黙想の助け、職員研修などにもご活用いただいております。

<全7講座>

- T001=キリスト教とは 日本の宗教観に照らして学ぶキリスト教の概要。
- T002=聖書入門〔I〕四福音書を通してイエスの生涯をたどる。
- T003=キリスト教入門 キリスト教の秘跡や信仰生活について学ぶ。
- T004=神・発見の手引 人生、自然を通して神の呼び声に耳を傾ける。
- T005=聖書入門〔II〕使徒の働きとその手紙、黙示録について学ぶ。
- T006=幸せな結婚 カトリックにおける結婚の意味や愛、幸福とは？

T007=生きること・死ぬこと 老いや命、旅立つ人に寄りそうケアについて考える。

<受講料> (教材費・税込)

- T001~T004 各4800円
- T005~T007 各5300円

<お申込み>

郵便振替用紙にご希望の講座名・講座番号(T001~T007)をご記入の上、下記にお振込みください。入金確認後教材をお送りいたします。

振替口座番号: 00170-2-84745
加入者名: オリエンズ宗教研究所

<お問い合わせ>

オリエンズ宗教研究所 カトリック通信講座(〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5) TEL 03-3322-7601



2月9日(金)、薩摩川内宗教者懇話会(会長・ハシマ神父)がカトリック川内教会であった。「学習会」がカトリック川内教会の講師には前鹿児島大学名誉教授で現在は鹿児島国際大学で教鞭を執る田中京子教授を招いた。通常の学習会はプロテスタント、カトリック、神道、立正佼成会、仏教の代表者だけの出席で開かれていたが、一人でも多くの人に学んで欲しいとの狙いで、各団体の会員にも呼びかけたところ

ルターの改革について学ぶ 薩摩川内市宗教者懇話会「学習会」

約60人の参加があり、ハンマ神父による平和の祈りで始まった。田中教授のお話は、ルターの宗教改革について。それによるとルターは一般人にも理解できるように新旧聖書をラテン語からドイツ語に翻訳した。それは当時、ラテン語は教養語であり大衆には理解が難しかったからだ。またルターは音楽においても多数ドイツ語で賛美歌を作曲し、聖書や賛美歌をルネサンス期、ドイツの活版印刷によって普及させた。特に音楽においては複音楽、複旋律の時代に調性

音楽の先陣を切った。またヴィッテンベルグ城教会の扉に95カ条の提題を掲示したが、宗教上の改革を求めた意見書ではなく、討議のための議題提案であったことなどを、ルターの功績やエピソードなどを交えなが

持久走で冬に鍛える 吉野幼稚園の子供たち



寒い毎日が続く今年の冬、そんな中、2月8日(木)、吉野幼稚園では恒例の持久走大会があった。園児たちはそれぞれの体力に合わせて、園庭で、それらの協力を得て一般道を700m、1000mと一生懸命に走りきった。またこの日は縄跳び大会もあった。

ら話していただいた。最後に副会長(西氏・立正佼成会)が平和への決意を誓い閉会となり、お茶を飲みながら懇談し解散となった。(報告・川内教会 Y・K)

司教執務室便り

「祭りミサ」のご提案!

先月12日に行われた那覇教区の新司教は久しぶりに外国人でカプチンフランシスコ会のアメリカ人。叙階式も異色。ミサは通常通り始まったが、叙階の儀になると雰囲気が一変した。

聖堂に響く甲高い小太鼓の音と共に、会衆の中ほどから祭壇前に現れたのはお揃いの法被を着たカトリック小学校の女の子たち6人。めでたい席で披露されるというエイサーのためだ。開式の歌ならぬ開式の踊り。アフリカかどこかの国では奉納行列は踊りながらなされると聞いたことがある。「ミサで踊りとは、やはりお国柄」と聞き流したものの、最近少し違う感想を持つようになった。というのも、先月、タイ東北の教会やフィリピンでの元氣いっばいのミサを立て続けに体験したことが大きい。そして、日本のミサがあまりにも静かで元氣がないことを痛感したのだ。

ミサは感謝の祭儀という。端的に言って祭りの要素がもつとあっていい。祭りと言え

踊りはつきもの。祭儀は必ずしも踊りを伴うものとは限らないが、少なくとも感謝祭となれば感謝や喜びをもつと表そうとするのが普通だ。

その点、ミサの祭儀はどちらかと言えば「厳かな祈り」の要素が強い。それはそれでいいのだが、自分としても静かで落ち着いたミサが好みではあるのだが、先月の二つのミサ体験を思うにつけやはり物足りない。そこで提案したい。祭りは年一回が普通なので、踊りのある「祭りミサ」を年一回実施してはどうか。1年間、それに向けてしっかり準備する。入祭の歌や奉納の歌にかえて踊り。昨年の奄美での復活祭の野外ミサは、ややそれに近いものだったが、地元で採れた農産物の奉納も目を引いたが、それに加えてツイズイン(小太鼓)と共に八月踊りでの入祭も野外ならそれほど違和感はないかと思われるがどうだろう。

ちなみに、MEのミサで一番盛り上がるのは平和のあいさつ。参加した夫婦たちがハグし合い、言葉を交わし合っって体いっぱい喜びを表す。そんな盛り上がり年一回の「祭りミサ」で体験できたら



会と催し 3月

- 2日(金) 性虐待被害者のための祈りと償いの日
- 4日(日) 四旬節第3主日
- 8日(木) ザビエル祭実行委員会・教区本部・19時
- 11日(日) 四旬節第4主日
- 14日(水) 柳本繁春神父叙階記念(1964年)
- 17日(土) 日本の信徒発見の聖母
- 17日(土) 田原章神父(1953年)、坂本進神父(1984年)、関根悦雄神父叙階記念(1984年)
- 18日(日) 四旬節第5主日
- 18日(日) 聖ヨセフ
- 19日(月) 成相明人神父(1967年)、丸野六雄神父叙階記念(1977年)
- 20日(火) 牧山田一神父、ムイベルガ神父、サンタマリア神父、栃尾泰英神父、タム神父霊名(聖ヨセフ)
- 20日(火) ゼローム神父命日(2003年)
- 20日(火) 教区巡礼委員会・教区本部・19時
- 20日(火) 郡山健次郎司教叙階記念(1972年)
- 20日(火) 永山幸弘神父(1968年)、寝占敦之神父(1983年)、宋診旭神父(2013年)、鄭法鍾神父叙階記念(2013年)
- 21日(水) 頭島光神父(1987年)、大松正弘神父(1987年)、小隈憲士神父(1988年)、末吉卓也神父叙階記念(2003年)
- 24日(土) 山口好信神父叙階記念(1991年)
- 25日(日) 受難の主日(枝の主日)
- 25日(日) 世界青年の日
- 25日(日) オリープの会・教区本部・14時
- 25日(日) 泉浩二神父叙階記念(1993年)
- 25日(日) コンタリーニ神父(1998年)、島田喜蔵神父命日(1948年)
- 28日(水) 聖香油ミサ・カテドラル・11時
- 28日(水) 田辺徹神父叙階記念(1951年)
- 28日(水) 明松尊吉神父命日(1992年)
- 29日(木) 聖木曜日(主の晩さん)
- 29日(木) 内野洋平神父叙階記念(2003年)
- 30日(金) 美島春雄神父命日(2016年)
- 30日(金) 聖金曜日(主の受難、大斎・小斎)
- 30日(金) 聖地のための献金
- 31日(土) 聖土曜日
- 31日(土) 河野純徳神父命日(1989年)

祈りの意向

- 福音宣教 霊的識別の養成
- 日本の教会 原発事故の記憶を保つ

ザビエル書院からのお知らせ

棚卸のため3月28日(水)、29日(木) 両日は休業させていただきます。ご了承ください。

ザビエル書院

「新福音化の集い」に参加して

谷山教会 岩崎正幸

10月20日（金）から22日（日）まで、東京・日本カトリック会館で開催された「新福音化の集い」に参加させていただきました。主催は、司教協議会の新福音化委員会、委員長は諏訪榮治郎司教様です。全国各教区からの参加者名簿には、カトリック新聞でお名前を拝見するなど、活躍されている方々がたくさんで、自分など何ができるのだろうと心配でした。

1日目は、30年前に行われた、福音宣教推進全国会議 NICE についてのお話があり、岡田武夫大司教様からありました。しかし、参加者の多くは NICE について「聞いたことがある」程度のことしか知らず、逆に、NICE についての認識がその程度のものであることに、主催者側が驚いていた様子でした。

2日目は、午前中、「福音マーケット」という方法により、おもに「教会は社会にどのようなのかが提供できるのか」を探りました。今回の集まりの主要なプログラムでしたが、まずは一人ひとりが、自分のまわりの困っている人の悩みや必要なことをあげ、同時にそれらに対し、教会は何ができるかもあげました。それらをポストイットにそれぞれ書き上げ、それを持ち寄り、模造紙に貼り上げながら、類似の問題点や悩みを整理していきました。

午後からは再び参加者から「私が見える範囲、知っている範囲での福音宣教」という題で話がありました。その後しばらく個人での黙想の時間があり、黙想のあとグループでのまとめ作業に入っていました。

3日目は、一人ひとりが「新たな福音化に向けて」と題して、前日のまとめ発表から鍵となる言葉をひろいあげ、「祈り」と「今回の集いを通して気づいたこと」をまとめました。それらを書き上げ、最後の派遣

「ともに」「喜び」をキーワードとした日本における福音宣教が全国展開し始めたのでした。しかし、その後、全国的な福音宣教に関する会議・集まりを持つことができずに30年が経過し、今回の「新福音化の集い」の開催となった、というこの集まりの目的が紹介されました。

岡田大司教様のお話に続き、3人の参加者から、「私が引き受けてきた福音・信仰への奉仕」という題で、日常の活動についてのお話があり、それをもとにグループに分かれての分かち合いが行われました。グループは主催者の方であ

らかじめ5つに設定され、各教区からの参加者2人は原則同じグループになるよう6人くらいずつに分けられていました。また、3日間を通じてずっと同じグループでの分かち合いが続きました。わたしたち鹿児島教区からは、長崎教区、大分教区からの方々と同じグループとなっていました。

長崎教区の方が、LINE を利用して自分の家族（未受洗者を含む）に毎朝のミサの説教からその日の福音書に関連した話を送信している話や、大分教区の方が、職場の部下の失敗やトラブルに対して優しく寄り添う対応をしている話がありました。

午後からは再び参加者から「私が見える範囲、知っている範囲での福音宣教」という題で話がありました。その後しばらく個人での黙想の時間があり、黙想のあとグループでのまとめ作業に入っていました。

わたしたちのグループでは、「個人の福音的センスを磨く」ことや「福音的な対応に気づくことが福音化につながる」あるいは「社会の活動から私たちが福音化される」などとまとめられていきました。

グループのまとめの中に、「祈り」や「隣人愛」ということが盛り込まれたのはわたしとしては残念でした。メッセージとしては当たり前すぎたのかも。それに、その日のうちに各グループでのまとめ発表が全体で行われ、各グループで分かち合われたことになりました。その日の夕食時には交流会がもたれ、各教区のままさまざまな話を聞く機会となりました。

毎年は無理でしょうが、数年に一度は定期的にこのような集いをもちこたえたい。必要だろうと感じました。



KJPP（鹿児島正義と平和協議会）通信 3月号

日本カトリック正義と平和協議会「全国会議」テーマ「改憲、信教の自由の危機 日本カトリック150年の節目を迎えて」

あいが午後まであった。18日は各グループ発表と派遣ミサ。初日の講演内容は以下の通り。

①国家神道は戦後も生き続けている。②宗教機関としての神社本庁。③日本会議が目指すもの。④天皇崇拝と民衆の力。⑤信教の自由の抑圧（1930年代）。キリスト教の場合Ⅱ上智大学靖国神社参拝拒否事件、美濃ミッション事件、奄美大島事件

開催日・2月16日～18日
開催地・東京
16日、公開講演（イグナチオ教会）、講師・島蘭進さん（上智大学）
17日、午前中は「最近の政治状況について」、中野晃一先生（上智大学）の講話、その後各グループ（沖縄、原発、改憲）の分かち

「教会内で政教分離について理解の違いがあるり輪が広がらない。現代世界憲章や信徒使徒職に関する教令の理解を深めることが望まれる。現代人は、それぞれ多様な生き方で暮らしている。若い世代はインターネットによって情報を得ているが、信頼性を正しく判断する力を養うことが必要。対案を提示し実行できる政治家、できれば将来の総理大臣を育てたい。」
（報告・川口 茂終身助 祭）

定例会の案内（毎月第3土曜日）日時 3月17日（土）13時～15時 場所 教区本部

祈りと償いの日、聖地献金について

性虐待被害者のための祈りと償いの日

2016年、教皇フランシスコは、子どもに対する教会のメンバーの責任について明確に意識できるように、神により頼む日として「性虐待被害者のための祈りと償いの日」を設けるよう全世界の司教団に通達されました。

これを受けて日本の教会は、「性虐待被害者のための祈りと償いの日」を四旬節第2金曜日と定め、祈りと償い、被害者の痛みを学ぶ機会としました。教会のメンバーが犯した罪を認め、共同体として神からのゆるしを願い、被害者とその家族のために祈ります。

聖地のための献金

14世紀中ごろ、教皇クレメンス6世は、パレスチナ各地の巡礼所とヨーロッパからの巡礼者保護をフランシスコ会に委託しました。その後、政情不安定な聖地で苦勞している修道者たちを支えるために行われるようになった献金は、いつのころからか主の受難と死を記念する聖金曜日にささげられるようになりました。そして教皇レオ13世は1887年、カトリック教会のすべての小教区にこの聖地のための献金を命じました。

全世界の教会からローマ教皇庁に集められる献金は、現在、イスラエル、ヨルダン、キプロス、パレスチナ自治区内にある数多くの巡礼所や聖堂などの維持管理に充てられるほか、聖地の貧しい兄弟のための福祉施設や教育施設の運営、奨学金や生活保護などのために使われています。

（カトリック教会情報ハンドブックから）

1マは以下の通り。
①今の政治状況をどう見るか。②今後の見通し：現政権の国会運営のやり方
2日目午後からと3日目午前中は参加者が沖縄、改憲、原発いずれかのテーマを選び8グループ（各8人程）でテーマについて話し合った。

★原発グループの発表を聞いて私が感じたこと。
テレビ国会中継で安倍総理は野党議員への質問に答えて「いずれかの時期に原発廃止があると思うが、現政権下で国が進めているエネルギー政策がある。そのことも考える必要があるのだから」との発言があった。原子力関連産業と言わ

れている多くの企業で沢山の人が働いている。だから原発存続は大きな社会問題。そして核エネルギーはこれまで語りつくせないほどの被害や犠牲や損害を与え、多くの人々に悲しみ、苦しみを与えている。
核燃料廃棄物処理はその技術さえも、まず不可能との情報がある。また倫理的にも「善きくらしへの憧れ」を地球環境に当てはめれば、汚染廃棄物を遺産として後世に残すのは「悪い」ことだ。核エネルギーとは決別すべきだと強く思った。

おわりに
勝谷担当司教さんが次のように話された。